

# 厳しい年を全員が力合わせて乗り切ろう



平成18年の仕事始め式が1月7日に行なわれ、後藤淳・学園理事長は組織力を高めるため、学園本部の大学移転を検討中であることを明らかにしました。また後藤泰之・学長は「大学全入時代」を迎え、教職員一丸での対応推進を要請しました。

理事長  
学園本部の大学移転を検討  
学生の側に立つ教育推進を  
学長

後藤淳理事長と後藤泰之学長が仕事始め式で年頭のあいさつ



愛知工業大学情報電子専門学校  
愛知工業大学名電高等学校  
愛知工業大学附属中学校

### 目次:

年頭のあいさつ	2
サイエンス大賞	3
東南大との交流	4
学園表彰など	5
愛知万博特集	6
若さを磨く!	8

発行所  
名古屋電気学園  
〒464-8540  
名古屋市中種区若水3-2-12  
(052)721-0201



写真④はあいさつする後藤淳理事長④と後藤泰之学長⑤、写真⑤はあいさつを聞く学園職員⑥・大学教職員⑦

学園の仕事始め式は午前九時から本部棟五階の会議室で行なわれ、幹部職員らを中心に後藤理事長が「厳しい時代を予想させる寒いお正月だった。チエとチカラを出し合って難局を乗り切ろう」と強調しました。大学は午前十一時から、第二本部棟五階会議室で仕

事始め式。後藤学長は「昨年は万博など、大学を中心に情報発信ができた。ことは全入時代を控え、学生の側に立つ教育を推進したい」と協力を求めました。

学園の発展や教育・スポーツ分野などで学生・生徒の指導に貢献した人に贈られる「後藤鉀二賞」の平成十七年度受賞者が、前学園理事の故福永滋弁護士「享年(71)」と高校相撲部顧問の澤田勉教諭(53)に決まりました。故福永氏は昭和六十三年四月の理事就任以来、昨年五月二十五日に死去されるまで、学園が抱える様々な問題の対応などについて、弁護士の立場から貴重なアドバイスをし

## 平成17年度「後藤鉀二賞」 前理事の弁護士・故福永滋氏 高校相撲部顧問・澤田勉教諭

てこられました。また澤田教諭は、昭和五十二年四月に名電高校の社会科教諭となり、五十三年四月から相撲部顧問を務めています。これまでに全国高校相撲新人選手権で二回優勝するなど、相撲部を全国レベルに引き上げました。授賞式は一月二十日午前十一時三十分から、学園本部棟五階の会議室で行われます。なお、故福永氏に代わって祐子夫人が式に出席される予定です。

## 創立93周年祝い式典開く しめやかに物故者法要も



学校法人・名古屋電気学園の創立九十三周年を祝う記念式典が十一月七日午後

零時三十分から、名電高校の講堂兼体育館・喬徳館で行われました。写真⑧。後藤淳理事長はあいさつで、学園の発展を支えてきた教職員に感謝の意を表明するとともに、「学園の今後の発展・拡大には、皆さんのチカラとチエがどうしても必要です」とさらなる協力を要請しました。続いて永年勤続者の表彰が行われ、勤続三十五年、二十五年、十五年の計二十五人に記念品などが贈られました。この後、受賞者を代表し比嘉俊太郎・大学工学部都市環境学科教授がお礼のことばを述べました。永年勤続表彰者一覧は、面に。

また午後二時からは、覚王山日泰寺の本堂で平成十七年度学園物故者法要がしめやかに営まれました。写真⑨。読経の流れる中、この一年間に亡くなった十五人やこれまでの学園関係物故者のため、次々と焼香が行われ、参列者たちは心からめい福を祈っていました。



皆さん、明けましておめでとございます。暮れから非常に寒い日が続き、きょうも雪が舞っています。厳しい年を迎えたかなと思いますが、ことしもよろしく願います。

昨年一年は、万博をはじめ愛知県では色々な行事があり、学園としても関連するイベントなどを実施しましたが、皆さんに協力いただいていた無事、終了することができました。改めてお礼申し上げます。ところで、厳しい寒さのお正月を「身の縮む」思いで迎えたのは、ことしは身を引き締めてスタートしなければならぬ年ということではないでしょうか。間もなく入学試験が始まり、その結果によっては来年度の学園の体制が大きく左右される、影響を受けるという毎年の「行事」でもあります。皆さんがこれまで色々準備されてきた結果が出来ますが、教育の環境は年々、厳しさの度を強めていくようです。厳しい年がスタートするということは、年度の途中ではあります。新年度に向け、それぞれの持ち場で、「ふだん」以上の努力、力を出していただいで取り組みを進めて行かねばなりません。中学と高校の職員会議でも申し上げましたが、それぞれの厳しい時代に対応する力を発揮していただかないと到底取り組みがうまくいきませぬ。特に学園の方々は、大学を含めて学園全体を取りまとめ、将来あるべき姿を描き、自分たちで計画してそれを推進していただく人々です。その重要な立場を自覚して頂きたい。

### 後藤淳理事長の年頭あいさつ(要旨)

いま、この学園本部敷地の再構築を考えています。まず、学園の本部機能を豊田市の大学に移すことから検討を進めています。この建物は古く、地震も心配です。高校の北校舎が完成して五年になりますので、こんどは附属中学の校舎を建て替える番です。具体化までにはまだ少し時間がかかるかも知れませんが、中学の立て替えだ、本部の移転だといった事態がすぐ来るかも知れません。その辺を理解していただいて、迅速な対応をお願いいたします。

地震対策や組織の強化。皆さん方は学園の中枢にいて情報が多いので、いいチャンスもあると思います。平成十八年度を迎える準備を急がねばなりません。皆さんの力を貸して下さい。

皆さん、明けましておめでとございます。理事長のあいさつにありましたように、寒さで本当に身の引き締まるような新年を迎えましたが、昨年は、愛知工業大学にとってはいいことが色々ありました。経営情報科学系大学院がスタートし、本山キャンパスがオープンしました。なんといっても、愛知万博がキャンパスに近い長久手町を主会場に開催されたことです。大学としても「万博大学」など関連イベントを開催し、皆さんのご協力ですべて成功裡に終えることができました。本当にいい一年で、大学を中心に色々な情報を発信できたと思っています。

### 後藤泰之学長の年頭あいさつ(要旨)

ここで、いよいよ「大入時代」を迎えます。以前、「危機感の共有」といったお話をしましたが、先生方全員が同じ気持ちで臨まねばなりません。こうした厳しい時代に対応するため、昨年から教育の改善を検討しています。学生の立場に立った教育、それは学生を甘やかすことではなく、第一線で活躍できる技術者を育てる、指導していくという意味です。空回りに終わらせないために、学生の意欲、やる気を起こさせてほしい。先生方一人ひとりが学生たちを引っ張る、面倒見のよい、いい意味での「ガキ大将」になってください。二〇〇九年には、愛工大も五十周年を迎えます。その時の大学の姿を今検討しています。ご協力をよろしく願います。

		卒業(園)式	入学(園)式
名古屋電気学園	愛知工業大学	3月23日(木)午前10時 会場: 鉦徳館	4月5日(水)午前10時 会場: 鉦徳館
	愛知工業大学情報電子専門学校	3月17日(金)午前10時 会場: 402講義室	4月7日(金)午前10時 会場: 402講義室
	愛知工業大学名電高等学校	3月1日(水)午前9時 会場: 喬徳館	4月6日(木)午前9時 会場: 喬徳館
	愛知工業大学附属中学校	3月16日(木)午前10時 会場: 愛名館	4月6日(木)午前10時 会場: 愛名館
愛和学園	愛知工業専門学校	3月16日(木)午前10時 会場: 4階製図室	4月10日(月)午前10時 会場: 4階製図室
	あいわ幼稚園	3月15日(水)午前10時 会場: 遊戯室	4月8日(土)午前10時 会場: 遊戯室

### 清野さんに博士号

博士論文「自動車車室静粛化の研究」直方体閉空間の構造―音響系連成問題の解析―が審査にパスした会社員・清野(せいの)裕之さん(36)「岡崎市」への博士号授与式が、十二月十九日午前十一時から大講堂四階会議室で行なわれました。

式には後藤泰之学長をはじめ稲垣慎二、澤五郎両副



### 卒業、入学式の日程

名古屋電気学園と姉妹学園の愛和学園は、各設置校の平成17年度卒業(園)式と平成18年度入学(園)式を上表の日時・会場で開催します。

学長、指導担当の安田仁彦工学部機械学科教授らが出席。清野さんの希望で妻・貴美子さん(31)や長女の結(ゆい)ちゃん(7カ月)が見守る中、後藤学長から博士(工学)の学位記が授与されました。写真。後藤学長は「仕事をしながらの論文は大変だったと思います。これからも社会に役立つ研究を続けてください」と励ましました。

# 名電など6校に「優秀賞」

## 第四回A I Tサイエンス大賞の研究発表会開く 自然科学、ものづくり部門に26研究



パソコン画像を駆使して研究発表する高校生ら

理科研究に興味を持つ若者を育成するため、東海四県の高校生に研究発表してもらい、その成果を顕彰する第四回「A I Tサイエンス大賞」の発表・表彰式が十一月十一日、大学10号館とA I Tプラザを会場に開かれました。今回の研究発表は「自然科学部門」が十二校十六研究、「ものづくり部門」が七校十研究。



10号館二階の大講義室で開会式があり、後藤泰之学長のあいさつに続き、「自然科学」は二階、「ものづくり」は一階の大講義室で、それぞれ一件五分の持ち時間を使ってステージ発表しました。午後にはA I Tプラザ一階でパネル展示発表が行われ、審査員が説明方法や展示内容などをチェックしました。

午後三時三十分から、「自然科学」は酒井忠雄・応用化学科教授(写真⑤)、(⑥)、「ものづくり」は小嶋憲三・工学部長(電気学科教授)写真(⑥)の両審査委員長による講評と審査結果の発表が行なわれました。「自然科学」では犬山高、岡崎高、一宮高、「ものづくり」では愛工大名電高、可児工業高、浜松工業高がそれぞれ優秀賞を獲得、トロフィーと賞状などが贈られました。受賞校と研究テーマなどは下表。

### 第四回A I Tサイエンス大賞の各賞一覧

部門		高校名	テーマ	
自然科学部門	優秀賞	犬山(愛知)	ヒメタイコウチを守れ!	
		岡崎(愛知)	斜面を転がる物体の加速度	
		一宮(愛知)	スプライトの研究	
	奨励賞	関(岐阜)		NO <sub>2</sub> がアイビーの光合成量及び蒸散量に及ぼす影響について - Part
				インゲンマメにおける環境条件とNO <sub>2</sub> 障害発生との関係について
		武義(岐阜)	鶴形山のヒメハルゼミ	
		岐阜農林(岐阜)	岐阜市・金華山の変形菌調査 - 2	
	努力賞	一宮(愛知)	高校屋上で採取した宇宙塵について	
		豊橋西(愛知)	汚染された水のカイワレダイコン生育への影響	
		四日市西(三重)	矢合川の水質と水生生物に関する調査～ヤゴの生息状況からの考察～	
吉城(岐阜)		台風23号の豪雨災害を追う		
一宮(愛知)		ベンハムのコマに見られる色彩の原因についての考察		
津島(愛知)		変形虹を求めて めざせ大空 モデルロケットでの挑戦		
東海南(愛知)		尿素の花(尿素結晶)の研究		
ものづくり部門	優秀賞	愛工大名電(愛知)	スターリングエンジンのメカニズム 3DCGによるものづくり	
		可児工業(岐阜)	電子制御指南車の製作	
		浜松工業(静岡)	地震の揺れに耐えるための脚歩行型救助ロボットの研究	
	奨励賞	佐織工業(愛知)		木製コースターの製作
				単三乾電池で走るエコカー開発に挑戦～カーボンモノコックフレームの製作～
		愛知工業(愛知)		音声認識を用いたロボット制御と音波の解析
				形状記憶合金(バイオメタル:人工筋肉)を用いたロボット制御
	岡崎(愛知)	反発係数の違いをモデル化する試み		
	努力賞	可児工業(岐阜)	3D-CADと切削型RPを用いたロボットデザイン	
		津工業(三重)	ピオトープ設計・施工におけるケーススタディーについて	

# 地震情報端末が本格稼働へ 大学 防災センターで操作説明会



十六日、防災端末を設置した三河地区の企業関係者を集めた説明会が開かれ、

文部科学省選定の研究プロジェクト「地震情報活用と防災拠点形成による地域防災力向上技術開発」の拠点施設、愛工大の地域防災研究センター(正木和明センター長)で十二月十五、

地震防災ネットワークづくりを推進する研究体制が整いました。近く、センターと設置企業を結ぶ防災端末が本格稼働します。

防災端末(写真④)は、三河地区の企業、事業所など約三十カ所に設置されています。防災センターに気象庁から送られてくる地震情報が、インターネットを通じて企業などにリアルタ



防災端末設置企業を対象にした操作説明会

イム伝達され、企業などが従業員の家族も含め迅速に被害防止措置などを講じられるようにするものです。

## 愛工大と東南大が さらに交流深める

姉妹校提携をしている中国・東南大(南京市)への愛工大代表团、学生代表団が九月から十一月に順次現地入りし、東南大学生代表団も九月に来日するなど交流が一段と進みました。

澤五郎副学長を団長とする愛工大代表团七人が、十一月十四日から七日間にわたって訪中しました。一行は、十五日から東南大を表敬訪問。今後の交流計画などについて話し合ったほか(写真①)、電気工程系

との共同研究についても協議しました。このあと、江蘇省教育庁への表敬訪問や二教員による特別講義が行なわれました。

間訪中し、十二日には東南大を表敬訪問しました(写真②)。また、劉国興副主任を団長とする東南大学生代表团十一人は九月十九日から七日間来日、愛工大の計算センターなどを見学しました(写真③)。



歓迎日本愛知工業大学学生代表



### 永年勤続表彰の受賞者一覧(敬称略) = 1面参照

#### 【勤続35年】9人

(大学)工学部都市環境学科教授・比嘉俊太郎 工学部都市環境学科教授・石田和人 工学部応用化学科助教授・村田護 基礎教育センター自然科学教室教授・服部忠一郎

(高校)教諭・浅尾幸吉 教諭・川口敏隆 教諭・加藤芳美 教諭・高橋力 事務部課長補佐・小島登志子

#### 【勤続25年】7人

(大学)経営情報科学部情報科学科教授・池田良夫 基礎教育センター総合教育教室教授・安藤光史 学生支援本部エクステンションセンター課長・大元司 事務局総務課課長補佐・井沢清人

(学園)事務局長・三輪博美 事務局財務部経理課長・伊藤忍 事務局総務部総務課係長・宮島宝七子

#### 【勤続15年】9人

(大学)工学部応用化学科教授・小林雄一 経営情報科学部マーケティング情報学科助教授・小島二郎 経営情報科学部情報科学科助教授・水野勝教

(高校)教諭・鈴木英之 教諭・松本裕一 教諭・山田健一

(学園)総合企画本部企画広報室長・後藤尚之 総合企画本部ホームページ室課長補佐・後藤幸樹 事務局総務部人事課課長補佐・林敬二郎

### 17年度の採択は70件

愛工大教育研究特別助成 大学教員の研究を支援する平成十七年度の「愛知工業大学教育・研究特別助成」対象研究がこのほど決まりました。助成金の配分方法で見直しが行なわれ、今年度から従来の「教育」「研究」に「経常的教育経費」を加えた三分野となりました。決定に当たり、将来性のある研究を重点に絞り込み、助成金の効果的配分が留意されました。審査の結果、「教育」分野は申請十五件で採択十一

件、「研究」分野は申請五十三件で採択五十一件、また「経常的教育経費」分野は申請十九件で採択八件となっており、全体では七十件が採択されました。

### 久野氏と藤川氏に「名誉教授」の称号

長年にわたって愛工大工学部の教員をつとめた久野精市郎氏(72)と藤川壽男氏(70)に九月五日、「名誉教授」の称号が贈られました。久野氏は機械学科特任教授、藤川氏は都市環境学科教授で三月に退職。

# 倉野名電高校監督に中日教育賞

## 「野球と合宿生活通じた人間教育」評価

中部九県の「きらりと光る教育実践」に贈られる第三十七回「中日教育賞」に、愛工大名電高校野球部の倉野光生監督(46)ら



中日教育賞を受ける倉野監督 = 中日新聞提供

### 名電高校野球部に「中部スポーツ賞」

一年を通じてアマチュアスポーツ界に貢献した個人と団体に贈られる「中部運動記者クラブ」の平成十七年「中部スポーツ賞」で、春の選抜高校野球初優勝の愛工大名電高校野球部が「正賞」に輝きました。十二月八日に表彰式があり、桜井正一校長をはじめ、織田秀彦部長、倉野光生監督、それに柴田亮輔主将、佐々木孝徳副主将が出席して賞状とトロフィーを受けました。

四団体と七個人が選ばれました。倉野監督の受賞理由は「野球と合宿生活を通じた人間教育」。贈呈式は十月二十六日に名古屋市中区の中日パレスで行なわれ、大島寅夫中日新聞社長が受賞者一人ひとりに額入りの表彰状を手渡したあと、倉野教諭が代表して「教育の

## 高校吹奏楽部を学園表彰



### 全国マーチングで金賞

名電高校吹奏楽部は十一月二十日、大阪市の大城ホールで開かれた第十八回全日本マーチングコンテストで「金賞」を獲得、この

大切さと皆さんの期待は計り知れず、責任の重さを感じています」とお礼の言葉を述べました。

倉野教諭は愛工大名電、愛工大で捕手。一九八一年に母校のコーチとなり、米大リーグマリナーズのイチロー選手らを指導、九七年に監督就任。創部五十年目の昨年、四年連続八回目の選抜出場で初優勝を飾りました。モットーは「野球は生活だ。生活が野球だ」。

受賞を顕彰する学園表彰が十二月二十日午後、高校北館東校舎2階の多目的ホールで行われました。

受賞者は吹奏楽部員七十三人と顧問の伊藤宏樹教諭、鳥山竜一教諭、梶山宇一講師。後藤淳理事長から伊藤顧問らに賞状が贈られたあと、吹奏楽部員を代表して橋本和久君と奥田彩可さん(ともに3年)に賞状が贈られました。写真。

全日本マーチングコンテストには、全国十一ブロックから選ばれた五十四団体がパレードコンテストとフェスティバルの部に出場。名電高校吹奏楽部は、パレードコンテストで金賞十一校の中に入りました。

## 【第14回名古屋モーターショー】

11月17~20日の4日間、名古屋市港区金城ふ頭のポートメッセなごや(名古屋市国際展示場)で開かれ、1号館で同時開催された「ITS(高度道路交通システム)特別企画展」に工学部電気学科・古橋秀夫助教授の研究室が「鉄人28号」などを出展しました。

ITS特別企画展会場は1号館の4分の1のスペースを使い、「まちづくり」「環境」「安全・安心」など8ゾーンが設けられました。愛工大は「ものづくりゾーン」に出展し、ディスプレイ操作で動く「鉄人28号」(写真)に子どもたちだけでなく、大人のロボットファンの人気が集まっていました。またデモンストレーション用の特設ステージでは、自慢のロボット8体による「ロボットバトル」のイベントもあり、盛り上がっていました。



## 各地のイベントで「技術力」PR

## 【ものづくり岐阜テクノフェア】

9月30日から3日間、岐阜市長良福光の岐阜メモリアルセンターで開かれた「ものづくり岐阜テクノフェア2005」に、愛工大工学部電気学科・鳥井昭宏助教授が「圧電素子と電磁石を用いた精密動作」(レーザと位置検出素子を用いた精密計測)、機械学科・戸伏善昭教授が「形状記憶材料の機能特性」(形状記憶合金と形状記憶ポリマーの機能特性と応用例を示す)、都市環境学科・正木和明教授が「防災システム紹介パネル」(小型地震計などの活用)をテーマに出展、研究成果を紹介しました。

## 【産学交流テクノフロンティア2005】

「技術が拓く、明日のビジネス!」がテーマ。愛知県、名古屋市、名古屋商工会議所による実行委員会の主催で10月26日から3日間、名古屋市千種区の名古屋市中小企業振興会館(吹上ホール)で開かれました。愛工大からは工学部都市環境学科・尾形素臣教授の研究室が「鉄筋の新しい接合方法」、機械学科・加藤厚生教授の研究室が「いもむし型探索ロボットAIT Rebo」、電気学科・鳥井昭宏助教授の研究室が「圧電素子を用いた精密移動機構および計測装置」の3研究を出展しました。

第12回 浦井雅之氏



最終回 梅原猛氏



# 好評博した「21世紀・万博大学」

## 全13講座 3会場で214人に修了証を贈る

愛知万博(2005年3月25日～9月25日)に合わせ、愛知工業大学が主催した市民公開講座「21世紀・万博大学」は9月10日、メインの万博長久手会場エキスポホールをはじめ名古屋市千種区の愛工大本山キャンパス、愛工大名電高校に開設された両サテライト教室の合わせて3会場で「閉学式」を行い、好評裡に13回の全講座が終了しました。3会場では、計214人に修了証が贈られ、このうち87人は13講座すべて受講の「皆勤」でした。エキスポホール会場では、閉学式後、受講者や関係者らが講師の哲学者・梅原猛氏を囲んで記念写真に収まり(写真)、13回の講義を懐かしんでいました。



### 万博協会から「感謝状」届く 名古屋電気学園と愛工大に

財団法人「2005年日本国際博覧会協会」(豊田章一郎会長)から昨年末、名古屋電気学園(後藤淳理事長)と愛知工業大学(後藤泰之学長)に感謝状などが贈られました。2200万人を超える観客を動員し、大成功のうちに閉幕した愛知万博。学園と大学では「21世紀・万博大学」の開催をはじめ「レスキューロボット」や「LED発光風車」を出展したほか、大学敷地の一部を瀬戸会場用地として提供するなど、多面的な協力が感謝状になったようです。

### “モリコロ”3月末まで使用可に

名古屋電気学園は、愛知万博でブレイクした「モリゾーとキッコロ」のキャラクター・イメージ(写真)を、ことし3月31日まで使用できることになりました。「万博協会」に提出していた延長使用の申請が認められたもので、この「学園だより」など学園を広報するための「制作物」、無償配布するものに限って使用が可能となりました。あとしばらく、可愛がって下さい。



## スポーツ情報コーナー

### 東海学生駅伝で愛工大A・Bが健闘

第67回東海学生駅伝競走大会が12月4日、愛知県武豊町・記念緑地公園・半田市・半田運動公園陸上競技場間の知多半島を1周する7区・63.7kmのコースで行われました。オープン参加の4チームを含め、東海4県から19チームが出場。前回、同タイムの“胸差”で2位に甘んじた愛工大Aが雪辱を期して頑張りましたが、3時間21分50秒のタイムで3位に終わりました。しかし、オープン参加の愛工大Bが3時間27分43秒でゴールイン、“5位”の健闘を見せました。

今大会からスタート・ゴール地点が変更となった上、あいにくの雨というコンディション。愛工大Aは1区で6位と出

遅れ、4区と5区では区間新記録の走りで追い上げましたが、およびませんでした。一方、愛工大Bは10位スタートから着実に順位を上げ、5番目のゴールを果たしました。両チームの記録は表の通りです(印は区間新)。



武豊町・記念緑地公園をスタートする選手たち

区間	距離	愛工大A		愛工大B	
		選手	タイム	選手	タイム
1区	8.5km	清水 翔太	26分38秒	柴田 雅也	26分59秒
2区	10.6km	徳山 雄太	32分33秒	鳥羽 邦彦	33分37秒
3区	8.1km	吉田 士恩	25分35秒	高井 浩二	26分08秒
4区	8.3km	望月 裕也	26分29秒	日下部吉彦	27分26秒
5区	10.3km	牛山 純一	32分23秒	川野 幸大	34分04秒
6区	9.3km	山内 広幸	30分03秒	荒波 順一	30分55秒
7区	8.6km	中嶋 章	28分09秒	羽根 啓介	28分34秒

### 「瀬戸近郊」では大学・高校がアベック優勝

第54回瀬戸地方近郊駅伝競走大会が12月11日、瀬戸市上本町の市民公園を発着点とする特設コースで行われました。男子1部(中学生以上=5区間・20.1km)に出場した愛工大単独の「大学コンソーシアムせと」Cチームが2位に1分余の差をつける大会新で優勝、Bチームが2位、Aチームが4位に入りました。区間賞も、全区をA～Cチームで独占しました。

また、男子3部(高校陸上部=5区間・20.1km)に出場した愛工大名電Bは、大会新記録で5年連続の優勝を飾りました。さらに愛工大名電Aが2位、愛工大名電Cが4位と続き、1部同様、全区間賞を愛工大名電A・Bで独占しました。

# 2005年秋冬 学園イベント アラカルト

名電高校総合体育祭



「フェニックス(不死鳥)」がテーマの第45回愛知工業大学大学祭。10月15、16日をメインに開かれ、模擬店やコンサートなどで賑わいました。

16日にはオープンキャンパスも開かれ、進路決定の参考にする高校生らで大盛況でした。地震体験には人気集中です。

11月8日は第25回愛工大駅伝大会。恒例の太鼓小児童によるリレーも。

第45回愛工大祭



情報電子専門学校のクリスマス電飾



1年生の有志約30人が、「学校をもっと目立つように」と玄関ホールに製作・展示しました。高さは約5mで、幅は約2mです。

10月末に名古屋市中港区で開催。生徒数が多く、全校生参加は初めての試み。

中高一貫コースになって6回目は10月末の開催。クラス展や校庭を飛び越しても登場。



附属中学校学校祭

オープンキャンパス



第25回愛工大駅伝大会



## スポーツ情報コーナー

### 愛工大が東海学生1部昇格(バスケットボール)

昨年秋のバスケットボール東海学生2部リーグで、愛工大は7戦全勝で優勝し、岩山伸司君(経営情報学部経営情報学科3年)が最優秀選手、久野良造君(工学部電気工学科4年)が優秀選手に選ばれました。また10月29、30日に行なわれた1部リーグとの入れ替え戦で、愛工大は1部6位の常葉学園大に80-72、80-71で連勝、1部リーグへの昇格を決めました。

### サッカー部も東海学生2部へ昇格

昨年秋、愛工大は愛知学生サッカーリーグ決勝トーナメント決勝戦で東邦学園大を1-0で破って優勝。また愛知、岐阜、三重、静岡県の各県リーグ1位によるトーナメントでも、浜松医大に3-0で勝って優勝を飾りました。この結果を受け、11月5日に行なわれた東海学生サッカー2部リーグ入れ替え戦では、最下位の東海大学海洋学部を2-1で退け、県リーグから2部リーグへの昇格を勝ち取りました。

### 梶本選手(愛工大)クラウンズ出場ならず

ゴルフトーナメント・中日クラウンズ出場をかけた第44回中部日本ゴルフマスターズ選手権は11月10日、岐阜県可児市の日本ラインゴルフ倶楽部西コース(6850ヤード、パー72)で開幕し、梶本康太郎選手(経営情報学部経営情報学科4年)は初日4バーディー、1ボギーの69で回り、首位に立ちました。しかし、最終日は2バーディー、3ボギーの73とスコアを伸ばせず2位に終わり、クラウンズ出場はなりませんでした。

### 名電・柴田主将を3巡目に指名(オリックス)

高校生対象のプロ野球の新人選択(ドラフト)会議が10月3日、東京都内のホテルで開かれました。オリックスが愛工大名電の柴田亮輔主将(遊撃)を3巡目に指名し、名電高では柴田選手の記者会見が行なわれました=写真。桜井正一校長、織田秀彦部長、倉野光生監督とともに会見に臨んだ柴田選手は「僕はホームランをがんがん打つタイプではないので、これからしっかり体をつくり、足を生かしてプレーできる選手になりたい」などと抱負を語りました。



### 中部日本学生スキーで9連覇

スキーの第51回中部日本学生選手権大会が1月8~11日、長野県白馬村の岩岳スキー場に18大学の140選手が参加して開かれました。男女各6種目が行われ、愛工大は男子一部で総合得点117点を獲得、9連覇を果たしました。2位は信州大の80点。個人成績は、三浦健太郎選手(電気工学科3年)がアルペンの回転で優勝、大回転で2位、スーパー大回転で4位に入る健闘を見せました。西裕之監督の話「部員10人が一丸となって勝ち取った優勝だけに、とてもうれしい」。

中国へ初の修学旅行

中山陵前で記念写真に収まる生徒たち



若さを磨く!

次代を担う若者たちに、見聞を広め、積極的に世界へ飛び出して行つてもらおうと、名古屋電気学園の各設置校では、様々な機会をとらえて学生・生徒を「研修の場」に送り出しています。

名電高校の一、三年生 生徒二十人と引率教師二人が七月二十四日から十六日間、カナダ・バンクーバーのブリティッシュコロロンビア大学(UBC)でキャンパスや宿泊施設を利用した二回目の「夏季語学研修」に参加しました。到着二日目から会話や文法、

附中の中高一貫コース5年生(高2)

生徒37人と引率の桜井正一校長ら3人の計40人が11月15日から、4泊5日で中国の南京、蘇州、上海の3市を見て回りました。新型肺炎(重症急性呼吸器症候群=サース: S A R S)の流行で中止になるなど、3年ごしの計画がやっと実現したものです。中山陵(南京市)、拙政園(蘇州市)といった史跡見学をはじめ、愛工大の姉妹提携校・東南大学の附属中高一貫校「南京第九中学校」を表敬訪問、交流を深め合いました。上海では、夜に「上海雑技」も楽しみました。桜井校長の感想は「旅行に行く前とあとでは、生徒の顔つきが違っていた。見聞きし、体験したことはいつか、きっと役に立つはずです」。



語学研修のあとは大自然を満喫

カナダで夏季語学研修

読解力など英語をみっちり勉強、多くの宿題もこなしました。期間中、シアトルまでイチロー選手の試合を見に入ったり、帰国直前にはビクトリアなどカナダの大自然を満喫しました。

附中の2年生 平成12年から実施している「野外教育活動」の一環として10月26日~28日の3日間、5人の先生に引率された生徒101人が富士山麓の山梨県清里「キープ自然学校」で合宿生活を体験しました。八ヶ岳高原の豊かな自然に触れ、共同生活を通して協調や協力の大切さを子どもたちに知ってもらおうというものです。合宿期間中、生徒たちは乳しぼりなどの酪農をはじめ、自然観察とゲームを

富士山麓で研修



恐る恐る乳しぼりを初体験をする生徒たち

を組み合わせてハイクラフトやグロブなどを夜空を観望しました。

大学三年中心に一五八人

大学生が就職前に企業の実態を学ぶ「インターンシップ」は年々、関心が高まっています。愛工大でも平成九年度から制度をスタートさせていますが、平成十七年春秋の参加者は三年生を主体に過去最多の百五十八人を数えました。体験企業は地元東海地方が中心で、東は関東、西は四国に広がり、日本の海外法人などでの研修も年々増えているということです。

り旋盤を動かしたりと様々で、万博が開かれた昨年はイベント関連企業の人気が高かったようです、



ヘルメットを付けて作業体験

インターンシップに参加

編集後記

アスベストにフェロシルト、耐震強度偽装問題に証券取引所のシステムダウンなどなど、昨年は普段「思いもしない」ことが立て続けに起き、「想定外」が流行語にすらなりました。マスコミでも、報道陣の前で頭を下げる幹部の写真・映像が何度も取り上げられました。ある時まで「想定外」だったことでも、何かをきっかけに「想定外の範囲内」として対処を迫られることはよくあります。「想定外」になりそうな事態をできるだけ事前に掌握し、ダメージを受けないようにするのが企業などの「危機管理」でしょう。「その時の情報が正確であつても、対応を間違えると大変なことになる」いい例かも知れません。まして「情報が正しくなければ」、「対応を間違える」危険性は高まります。日本の「少子化」は「想定外」の速さで進み、政府の対策が効果を上げるのはまだ先のことになりそうです。「大学全入時代」の直前に私たち教育界の間は、「想定外」にならないくて済むために何をすればいいのでしょうか(柳)